太子町文化財資料　第18集

斑鳩寺講堂保存修理工事報告書

－重要文化財保存施設補助事業－

１９９０．３

太子町教育委員会

例　　言

1．本書は、兵庫県揖保郡太子町鵤709 番地に所在する斑鳩寺講堂屋根葺替修理工事の報告書である。

2．斑鳩寺講堂屋根葺替修理工事は、昭和63年度・平成元年度国庫補助事業として実施した。

3．本書の編集に当たっては、財団法人文化財建造物保存技術協会による、『斑鳩寺講堂屋根葺替修理工事設計書及び実績報告書』をもとに、発見物などをまとめた。

4．本書の編集は、太子町教育委員会社会教育課三村修次、田村三千夫が行なった。

目　　次

1．　斑鳩寺の概要 ———————— 1
2．　建造物の概要 ———————— 3
3．　破損状況 ———————— 5
4．　建立及び修理の経過 ———————— 6
5．　修理事業の内容 ———————— 7
6．　工事仕様 ———————— 8
7．　防災施設工事の概要 ———————— 9
8．　工事費 ———————— 10
9．　工程表 ———————— 13
10．　史料文献 ———————— 13

1．斑鳩寺の概要

斑鳩寺は、兵庫県の南西部の太子町鵤字斑鳩寺709 番地の地籍にあり、東・北部には檀特山・城山・馬山・松尾山・笹山など標高160mから200mの山塊が形成され、その南、西には揖保川と支流の林田川の扇状平野が展開する標高15m の位置にある。

第１図　斑鳩寺付近地形図

斑鳩寺の創建については、文書史料から明らかにすることはできないが、天平19年(747)　2月11日の『法隆寺伽藍縁起并流記資材帳』に播磨国揖保郡に水田219 町1 段82歩及び薗・山林・池・荘倉があった。この記載事項から法隆寺の一院として斑鳩寺が造営されるに至ったと思われる。嘉暦 4年(1329) 4月作図の『鵤荘絵図』には、西方十八条垣本坪に斑鳩寺あり、講堂・太子堂が描かれてる。

天文10年(1541) 4月 7日の未明、戦乱を避けて斑鳩寺境内に避難していた牢人衆の小屋より火出し、諸堂ことごとく焼失したが、永禄 8年に三重塔が再建され、それ以後仁王門・太子堂・講堂・鐘楼等が再建された。寛文 8年(1688)『斑鳩寺記録』には「当寺堂塔寺院之図」がおさめられており、斑鳩寺境内の伽藍配置を知ることができる。宝永 7年(1710)『斑鳩寺記録』に斑鳩寺の境内寺領についての記載がある。

播州揖東郡斑鳩庄太子寺　　山号院号無シ

一．天台宗　　本寺比　山

一．御朱印　　高百五拾四石三斗

一．開山　　聖徳太子三十五歳

一．本堂　　七間三尺・八間一尺　本尊薬師・弥陀・観音

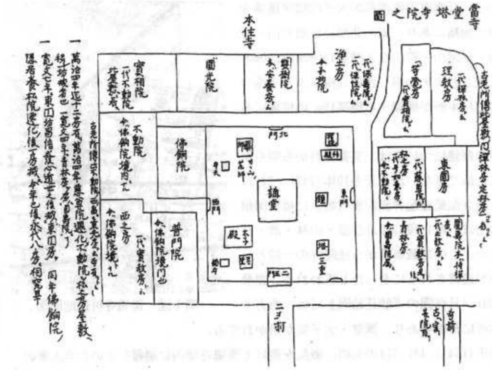
一．太子堂　六間半四方　十六歳像御自作

一．三重塔　二間半四方　本尊釈迦如来　　（太子町史史料編p269)

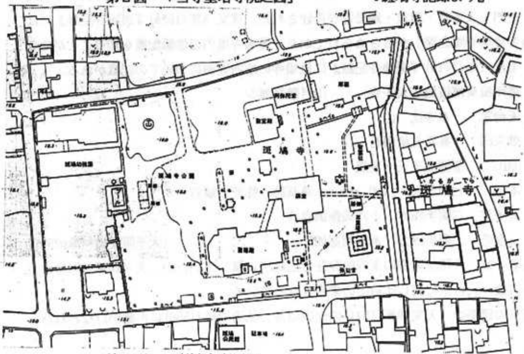
斑鳩寺は、大和法隆寺の末寺的存在で法相宗に属していたが、天文10年(1541)の大火災以後、天台宗に属し比叡山の末寺となっている。

講堂の建築は、天文10年(1541)の火災以後、弘治 2年(1556)に再建が行なわれた。

現在の建物は、明和 6年(1769) 3月 6日に棟上式を行なわれ、明和 9年(1772)頃に完成し、昭和41.42 年に背面東の一部屋根瓦葺替修理を実施しされたにすぎない。



第２図　「当寺堂塔寺院之図」　　　　『斑鳩寺記録より』



第３図　　斑鳩寺配置図

2．建造物の概要

（イ）　工事対象の名称等

県名	名称・構造形式	建造物の大きさ			備　考
		平面積	軒面積	屋根面積	工事額
兵　庫	斑鳩寺講堂 桁行五間、梁間五間一重、入母屋造 向拝一間、本瓦葺	218.2 ㎡	394.8㎡	575.㎡	（本体額） 28,701,814円
	斑鳩寺三重塔 三間三重塔婆、 本瓦葺	20.6㎡	121.0㎡		

斑鳩寺講堂内に重要文化財（彫刻）木造釈迦如来坐像
重要文化財（彫刻）木造如意輪観音菩薩坐像
重要文化財（彫刻）木造薬師如来坐像の三躯が安置されている。

斑鳩寺三重塔　兵庫県揖保郡太子町鵤 709番地

（ロ）　指定年月日

重要文化財（彫刻）

木造釈迦如来坐像・木造如意観世音菩薩坐像・木造薬師如来坐像

明治３４年　８月　２日

重要文化財（建造物）

斑鳩寺三重塔（三間三重塔婆、本瓦葺）１棟

昭和　３年　４月　４日

(ハ)　指定文化財の概要

名　称　　木造　釈迦如来坐像　　　　　　　員　数　　1躯

　　　　　木造　如意輪観音坐像　　　　　　員　数　　1躯

　　　　　木造　薬師如来坐像　　　　　　　員　数　　1躯

概　要　　釈迦如来は像高1.90m 、如意輪観音は2.45m、薬師如来は2.06m の巨像である。斑鳩寺講堂に安置され秘仏であるが、60年ごとの大開帳、その他寺に特別の行事のあった年に拝観がゆるされる。鎌倉時代以後復古的な仏像が多くつくられているがこの三尊も飛鳥時代の模古作である。相貌肉づけ衣文線などに、どこかバランスがとれず精神的充実感に乏しい。手法の稚拙というよりも、飛鳥時代の作風を充分に把握できなかった時代のせいであろう。製作年代は鎌倉時代末と考えるより室町時代初期にさげるのが妥当のようである。

斑鳩寺は天文10年に焼失し、わずかに聖徳太子像のみが救い出されたという。(鵤庄引付) したがって、この像も斑鳩寺本来の仏像ではなく焼失後どこからか移して安置されたものであろう。

指定年月日　　国指定　明治 34.　8.　2.

名　称　　斑鳩寺三重塔　　　三間三重塔婆、本瓦葺　　　　員　数　　1棟

概　要　　斑鳩寺仁王門を入ると、右手に頗る優美な三重塔がある。天文10年 (1541) 斑鳩寺炎上後、講堂・太子堂等つぎつぎに復興されたが三重塔は21年後の禄永 5年 (1562) になって再興された。斑鳩寺に現存する当時のただ一つの遺構である。和様、三手先の手法をとっているが、四隅の柱上に天竺様の大斗をのせているのは、鶴林寺本堂の建築様式の影響によるだろうといわれている。宝暦年間 (1751～1764) 大修理のほか数度の小修理を経て、昭和25年から27年にかけて根本的な解体修理が行われた。九輪・屋根・軒廻り等よりバランスのとれた美しい建築である。

天文10年以前の塔は、永正入15年 (1518) に九輪および三重目が崩れ落ち、大永 7年 (1527) より享禄 3年(1530) までかかって造り替えたものであろうが、おそらく現在の塔もこれに準拠してたてられたものであろうか、建築様式の中にどこか古様を伝えているように思われる。

指定年月日　　国指定　昭和 3. 4. 4.

（二）建造物の概要

名称・所在地

名　称　　斑鳩寺講堂

所在地　　兵庫県揖保郡太子町鵤 709番地

構造形式　桁行五間、梁間五間一重、入母屋造、向拝一間、本瓦葺主要寸法

区　分	摘　　要	寸法
桁　行	桁行両端柱真々	14.511 m
梁　間	梁間両端柱真々	13.767 m
軒の出	側柱真より茅負外角まで	2.511 m
軒　高	柱礎石上端より茅負外角まで	6.600 m
棟　高	柱礎石上端より棟頂上まで	
平面積	側柱真内側面積	218.200 m2
軒面積	茅負外下角内側面積	394.800 m2
屋根面積	平葺面積	556.700 m2

３．破損状況

区　分	屋　根	軸　部	基　礎	雑　作	傾斜・弛緩	そ の 他
破損程度	大	中	小	中	中	指定彫刻は保存良

（イ）屋　根

葺瓦の大半は表面が劣化しており、罅割や欠割が目立つ。また瓦の含水による葺土の崩れで平瓦の葺足斑が生じ、丸瓦や棟積瓦は横ずれが顕著にみられ、一部の軒先瓦は落下寸前の状態になっている。したがって、背面東半分を除く屋根は全般に耐用の限界に達している。

（ロ）小屋組・野地

正面の東西両隅部に雨漏りがあり、箕甲尻部の野地・野垂木は一帯に腐朽し、野隅木は一部朽落し、母屋や桔木もこの箇所で腐朽がみられる。

そのほかでも野地全般に雨滲み跡がある。

（ハ）軒　廻　り

裏甲と瓦座の腐朽破損が全般に及んでおり、特に向拝の全面と正面両側の箕甲尻両側面の破風尻部及び螻羽軒端は腐朽が顕著で、欠落箇所もある。

正面の西側箕甲尻部は木負や化粧垂木の一部が腐朽している。また、向拝では、化粧裏板の欠失箇所もある。

（ニ）柱間装置・造作

敷居鴨居や長押の取付きに隙間が生じ、全般に造作の仕口が弛緩している。正面中央間や外陣側面の一部に建具欠失箇所があり、また抜扉の綿板欠失や建付けの悪い箇所がある。

（ホ）防災施設　　　自動火災報知器の改修

昭和41.42 年度に、講堂・三重塔・聖徳殿の３報知区域に自動火災報知装置を設置しました。発信・受信装置はＰ型１級とし、差動式分布型感知器を設置。

この受信機は、消防用機械器具等又は消火設備等の消防法施行令の規定に基づき昭和５７年２月より受信器（Ｐ－１）火受第１０１号形式は期限失効の為、取替を要します。

４．建立及び修理の経過

講堂は江戸時代明和６年（1769）建築になり、建築以来根本修理は行なわれていないが、昭和40・41年度に国庫補助事業として、背面屋根の東半分を雨漏りによる部財腐朽に伴い、化粧隅木の取替を含む屋根の部分修理及び防災施設工事を行なった。

しかし、近年、屋根葺瓦全体の弛緩が著しく、堂内随所で雨漏りが生じ、屋根野地の陥没箇所等もあり、仏像の保存にも影響が及ぶようになった。堂内に安置され

ている重要文化財の仏像三軀（木造釈迦如来坐像・木造薬師如来坐像・木造如意輪観音坐像）は、内陣奥の後陣仏壇上にあり、保存状態は良好である。

5． 修理事業の内容

概 要

斑鳩寺講堂（本堂）は、明和 6年の建立以来部分修理によって、今日まで維持されてきたが、近年に至って屋根葺瓦の老朽化に伴う雨漏りが随所に発生して、この結果野地材並びに小屋組材の部分腐朽が生じ、堂内部に安置している仏像が損われる状態であった。

こうした状況から、その修理について修理計画書を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託し、破損状況報告及び修理基本設計書を作成した。これにより所有者は国庫補助金の交付申請書を文化庁に提出し、これが受理された。

事業着手に先きだち所有者は、兵庫県教育委員会ならびに太子町教育委員会の指導を受け、工事の運営を円滑に計るため修理委員会を組織した。工事は斑鳩寺の直轄工事とし、設計監理を財団法人文化財建造物技術協会に委託した。

工事は、講堂屋根瓦葺を80%葺き替え、これに伴う屋根野地の不陸是正、建具の補修など一括請負工事と防災施設工事を実施した。なお、工事実施にあたり一部計画を変更して、平成 2年 2月28日全工事を完了した。

工事関係者は次のとおりである。

文化庁文化保護部	建造物課	主任文化財調査官	半澤重信
	美術工芸課	文化財調査官	安達直哉
兵庫県教育委員会	社会教育・文化財課課長		中根孝司
	社会教育・文化財課指導主事		伊東良孝
	社会教育・文化財課		水口富夫
	社会教育・文化財課		森 俊雄

斑鳩寺講堂屋根葺替修理委員会

委員長	斑鳩寺代表役員	住職	大谷智康
副委員長		副住職	大谷康文
委 員	太子町教育委員会	社会教育課課長	松本昌之
委 員	太子町教育委員会	社会教育課副課長	首藤正弘

委　員	太子町教育委員会　社会教育課主査	三　村　修　次
委　員	斑鳩寺門徒総代	岡　部　正　信
委　員	斑鳩寺門徒	小　池　良　夫
委　員	斑鳩寺門徒	井　上　吉　明
設計管理	財団法人文化財保存協会　理事長	有　光　次　郎
	財団法人文化財保存協会　工事監督	近　藤　光　雄
工事請負者	文化財修理用耐久瓦製造並び建築工事業	小　林　平　一
	株式会社興電社　代表取締役社長	河　合　久　夫

6. 工事仕様

①修理方針

講堂屋根葺替、部分（軒廻り、小屋組）修理及び防災施設工事

（イ）　仮設工事

軒足代、登桟橋の架設を行ない、屋根解体中はシート養生を施す。また材料置場は堂内にベニヤ板敷、同囲い等を施す。

（ロ）　木工事

正面の東西両隅部の腐朽した小屋組・野地および化粧板屋根廻りの取解き修理をする。また、向拝や螻羽軒の腐朽した裏甲・瓦座の取替えおよび野地の補修を行ない、化粧屋根全般の止め釘弛緩箇所等の繕いを施す。

（ハ）　屋根工事

正面屋根の隅棟上限の辺りから下半分の屋根と、この上限線を両側西屋根に延長した辺りから南寄隅部の屋根、および両平の妻箕甲部屋根の葺瓦・土居葺を取解いてそれぞれ葺替えをする。

また、上記葺替部と背面屋根の東半分および東北隅部を除く箇所は丸瓦の葺替修理をし、正面・西の降棟の積み直しをする。

なお、補足瓦はすべて在来の古式瓦に放って新補し棟積む等の形式もこれに従っ

て葺き替えた。

(ニ) 雑工事

上記工事の際に支障となる避雷針および自火報の撤去改修と向拝軒樋の取替を行ない、また防犯上から外廻りの建具補修をする。

(ヘ) 防災施設工事

講堂・三重塔・聖徳殿の３報知地域の自動火災報知装置の改修工事を施す。
消防法施行令の自治省令に定める消化設備等、技術上の基準に定めるものとする。

② 工 期

事業期間14箇月、工事期間を 6箇月として、昭和64年 1月 6日に着手し、平成 2年 2月28日に完了した。

7. 防災施設工事の概要 (自動火災報知設備改修工事)

本工事は、日本建築家協会編、建築設備共通仕様書
(電気設備基準、消防法等、その他関係法規により完全に施行の事)

改修工事の概要

庫 裡 ＊庫裡に設置してある受信機Ｐ千１級６回線を撤去し、Ｐ型１級５回線に新設した。

講 堂 ＊差動式分布型感知器２ケ用Ｚセットを撤去し、防滴型２ケ用を新設した。
＊差動式スポット型感知器天井内８箇所を撤去し、８箇所を設定した。
＊発信機、電鈴、表示灯を撤去し、防滴型を設置した。

聖徳殿 ＊差動式分布型感知器１ケ用、２ケ用、３ケ用各１セットを撤去し、防滴型収納型を設置した。
＊差動式スポット型感知器天井内１３箇所を撤去し、１３箇所を設定した。
＊発信機、電鈴、表示灯を撤去し、屋外防水型を設置した。
＊端子盤（木製）を撤去し、鉄製端子函10Ｐｒを新設した。

三重塔　＊差動式分布型感知器を撤去し、防滴型収納函１箇所を新設した。発信機
　　　　電鈴、表示灯を撤去し、屋外防水型を設置した。

渡り廊下＊発信機、電鈴、表示灯を撤去し、屋外防水型総合盤を設置した。
　　　　＊端子盤（木製）を撤去し、鉄製端子函10Prを新設した。

電線路　＊庫裡より、講堂、三重塔、聖徳堂に敷設してある１Ｖ電線をそれぞれにあう、耐熱ケーブルに引き替える、その他は従来の線を使用する。

以上の機器取替及結線を完了さし、消防検査合格により平成 2年 2月 5日に引き渡した。

8. 工事費

収入の部　　　（本体額）　　　　　　　　　　　　　　　　（円）

区　分	昭和63年度	平成元年度	計	備　考
国庫補助金	6,974,000	13,116,000	20,090,000	総額の70%
兵庫県補助金	979,000	1,891,000	2,870,000	総額の10%
太子町補助金	979,000	1,891,000	2,870,000	総額の10%
所有者負担金	978,000	1,891,946	2,869,946	総額の10%
雑収入金	0	1,868	1,868	
総　　額	9,910,000	18,791,814	28,701,814	

収出の部　　　　（本体額）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（円）

区　分	種　別	金　額	内　訳	
総事業費		28,701,814		
修理工事経費		26,768,340		
工事請負費		26,768,340		
	仮設工事	1,426,720	軒足代	842,520
			登桟橋	64,080
			垂直養生	205,320
			屋根シート	200,000
			内陣養生	82,800
			材料置場	32,000
	木工事	3,738,040	補足木材化粧材	1,876,000
			雑資材	3,200
			器具損料	176,600
			釘・金物	9,800
			古色処理	51,380
			大工	1,367,620
			普通作業員	253,440
	屋根工事	14,527,900	補足瓦	6,629,580
			屋根取解	1,041,120
			土居葺繕い	1,797,500
			平葺	4,600,000
			大棟積	166,750
			隅、降大棟積	292,950

区　分	種別	金額	内　訳
	雑工事	1,038,000	軒樋 440,000 建具繕い 180,000 発生材処分 57,000 小屋内清掃 361,000
	防災施設工事	2,057,340	避雷針設備 426,000 自火報設備 1,631,340
	諸経費	3,980,340	現場経費 1,904,000 一般管理経費 2,076,340
設計料及び監理料		1,868,000	
	委託料	1,868,000	設計監理費 1,868,000
事務経費		65,474	
	旅費 需用費 役務費	27,660 17,414 20,400	特別旅費 27,660 消耗品費 17,414 印紙 20,400

9. 工程表

着工　昭和64年 1月 6日
竣工　平成2年 2月28日　　　（工事期間6か月）

区分・期間	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
工事事務		━	━	━	━	━			━	━	━	━	━	━	━
請負工事	仮設工事			━									━	━	
	木工事		━	━					━	━	━	━			
	屋根工事		━	━					━	━	━	━	━	━	
	雑工事											━	━	━	
	防災施設工事								━				━	━	━

10. 史料文献

①棟札

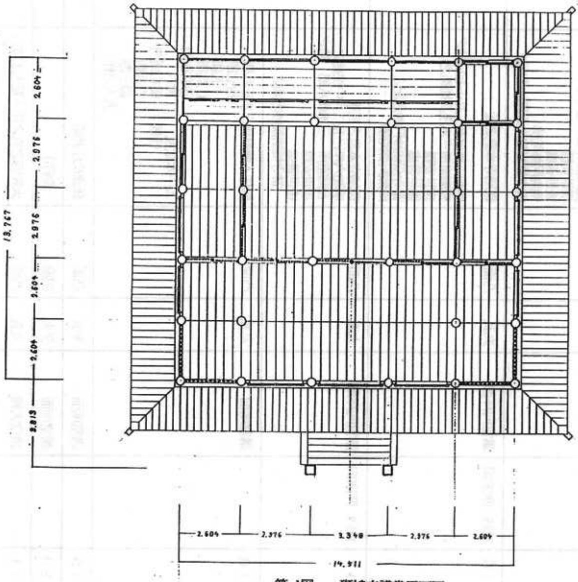
（表）　播州斑鳩寺
　　　　上棟　明和六年巳丑春三月初六日也
　　　　　　　委別記有込　　　　　　89.6cmX 18.8cm X1.3cm
（裏）　此棟木ハ弘治二丙辰ヨリ明和六巳丑マテ
　　　　年間凡ソ二百十餘年ヲ經テ両度ニ相用
　　　　ユル者也　干時　季春上浣之日　當寺雙樹沙門　妙志識之

（表）　雲水造営誠永年
　　　　性全庵妙志識之　　　　　　88.2cmX 17.9cm X1.1cm
（裏）　播州斑鳩寺本堂隅木四本懸魚貳枚雲板貳板其外
　　　　松木不殘太子山并當寺ノ境内稗田社ノ境内ニ出生
　　　　スル所ノ材木ナリ此度幸造営ニ因テ伐ラセ用ユル者也
　　　　時明和六年巳丑三月　當寺雙樹院大忍釋　妙志記之

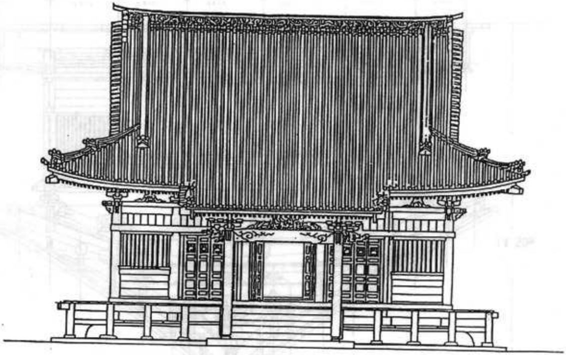
②瓦の刻銘　斑鳩寺文字瓦銘文集成

番号	年号（和暦）	使用建物及位置	種　類	記載位置	銘　　文	文献
1	1765　明和 2	講堂向拝東端	獅子	正面左側面 正面	瓦師　三木与兵衛　作之 明和二酉　　　八月日	
2	1765　明和 2	講堂向拝西端	獅子	正面　側面 正面	播州揖西郡　作人龍野住 瓦師　三木与兵衛 明和二酉　　　八月日	
3	1769　明和 6	講堂北西棟	二ノ鬼	正面 正面	明和六年　丑ノ五月吉日 庄兵衛行　治七郎	
4	1769　明和 6	講堂北西棟	隅鬼	正面 正面	明和六年　丑ノ五月吉日 三木庄兵衛行　治七郎	
5	1769　明和 6	講堂北面西	降鬼	正面 正面	明和六年　丑ノ五月吉日 鵤住人藤原氏三木 庄兵衛行　治七郎	
6	1771　明和 8	講堂東妻北側	降鬼	正面 正面	鵤住人　三木庄兵衛 寅ノ士相月日	
7	1771　明和 8	講堂東妻南側	降鬼	正面 正面	鵤住人　三木庄兵衛 明和八歳　寅ノ士相月日	
8	1769　明和 6	講堂向拝部	丸瓦	凸面	明和六年己丑二月十七日 始之 瓦師富所　三木伊八郎 造作 現世安穏 後世善処 富寺雙樹沙門妙志記之	
9		講堂東妻	軒丸瓦	凸面	南無阿弥陀仏□□	
10	1769　明和 6	講堂南西隅	軒丸瓦	凸面	播州鵤住人藤原氏 瓦師屋　三木庄兵衛 明和六年　丑二月十七日	
11		袖右側	平瓦	凸面	刻印　　大坂木津川口 瓦屋源兵衛	
12		講堂南東隅棟	軒丸瓦	凸面	模様	
13		講堂袖右側	平瓦	凸面	刻印　　大阪木津川口 瓦屋源兵衛	
14	1769　明和 6	講堂南西隅	軒丸瓦	凸面	播州鵤住人藤原氏 瓦師屋　三木庄兵衛 明和六年　丑二月十七日	

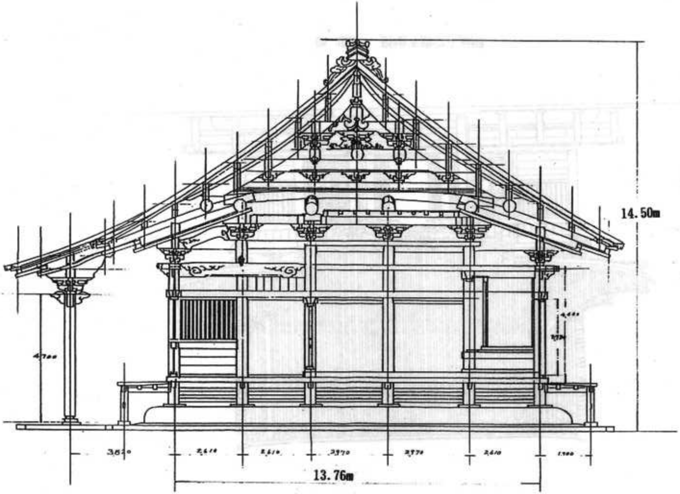
番号	年号（和暦）	使用建物及位置	種　類	記載位置	銘　　文	文献
15	1769（明和6）	講堂向拝部	丸瓦	凸面	斑鳩寺本堂之瓦 干時 明和六年己丑二月中旬始之 瓦師當所三木庄兵衛作之 現世安穏 後世善處 南無阿弥陀佛 當寺雙樹院大忍釋妙志記之	
16	1769（明和6）	講堂向拝部	丸瓦	凸面	斑鳩寺本堂之瓦 明和六年己丑二月十七日始之 瓦師當所三木庄兵衛造之 現世安穏 後世善處 當寺双樹沙門妙志記之 南無阿弥陀佛	
17	1769（明和6）	講堂向拝部	丸瓦	凸面	斑鳩寺本堂之瓦也 明和六年己丑二月中浣始之 瓦師當所　三木伊八郎　造之 現世安穏 後世善處 當寺雙樹院妙志識之	
18		講堂南面	丸瓦	凸面	鵤住人藤原氏三木庄兵衛 治七郎 十五郎 仁兵衛 善右衛門 太子本堂瓦　清六 仕候　藤右衛門 吉兵衛 源三郎 九人之作	
19		講堂南面	平瓦	凸面	藤原氏庄兵衛	
20		講堂南面	平瓦	凹面	（刻印）	
21		講堂大棟	丸瓦	凸面	大和西之京之住人瓦大工弥六 作	
22		講堂南面袖	袖瓦	凸面 凹面	（刻印）大坂木津川口 瓦屋源兵衛 い四寸	
23		講堂南面	隅軒平瓦	凸面	（飾）　橘	



第 1図　斑鳩寺講堂平面図



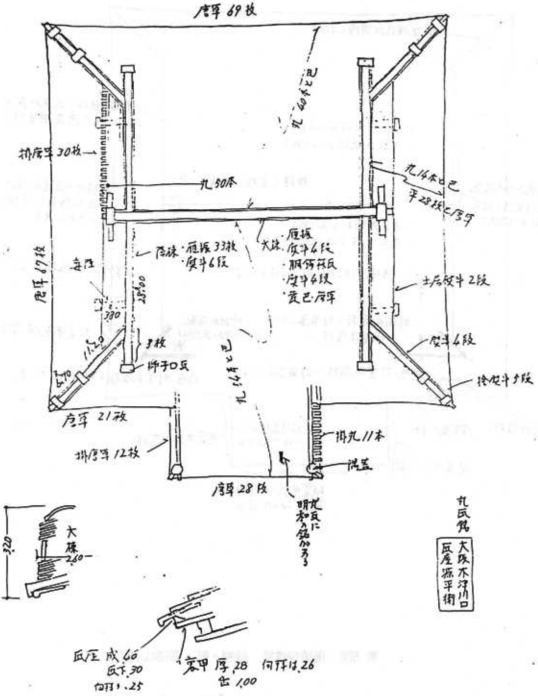
第 2図　斑鳩寺講堂正面図



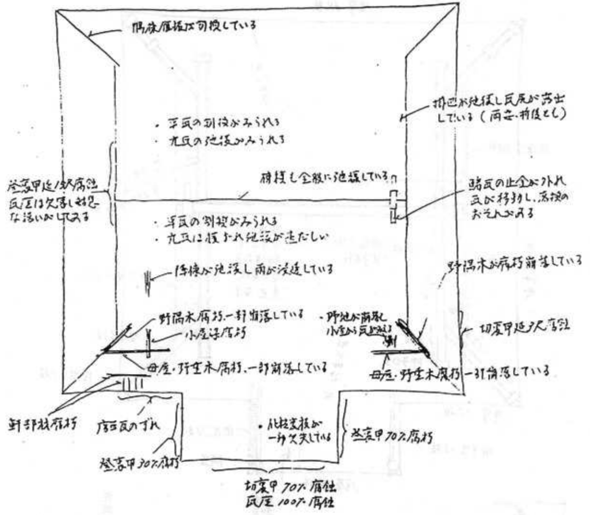
第 3図　　斑鳩寺講堂東側面図

(尺)

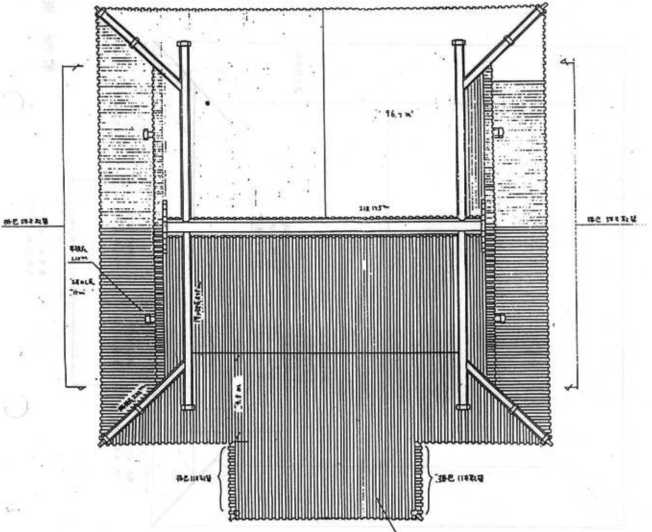
- 丸瓦　径.55~57, 長1.00
- 平瓦　巾1.00　長1.07　厚.075　葺足.48
- 巴瓦　鏡径.58
- 熨斗　巾.95　長1.07
- 雁振　巾.95　長1.03



第4図　斑鳩寺講堂　屋根瓦構成部材



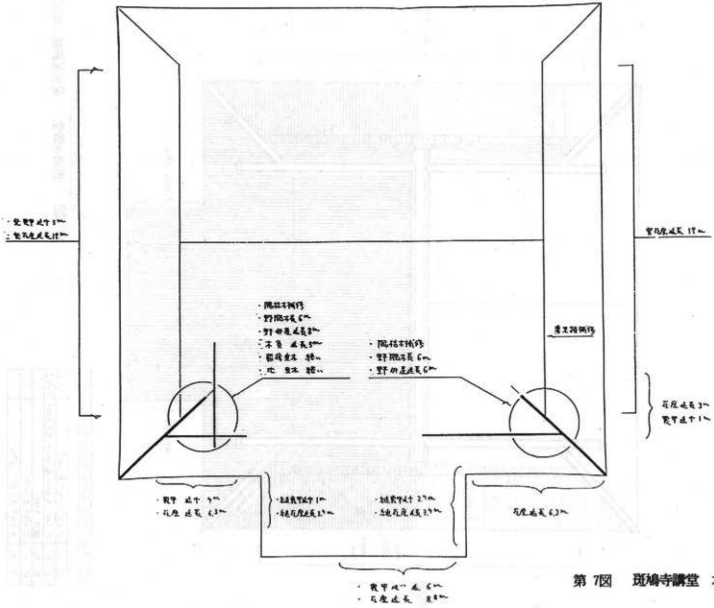
第 5図　斑鳩寺講堂　屋根・軒・破損状況図



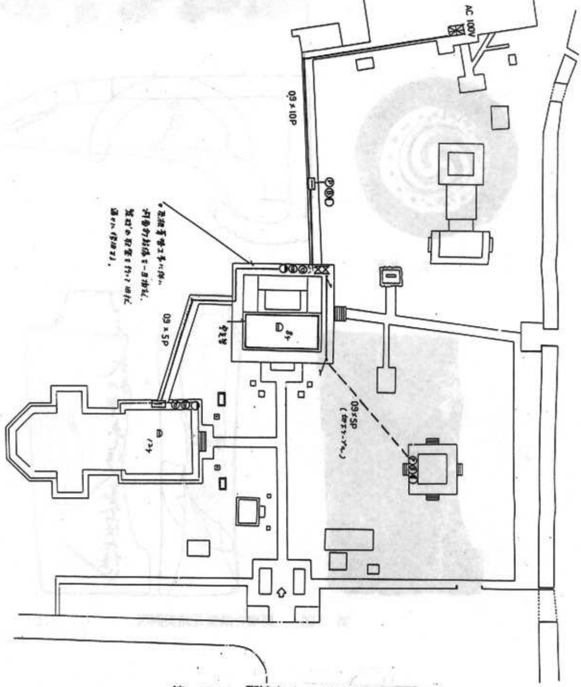
瓦寸法表（[illegible]）

丸　瓦	径 0.55尺～0.77尺 長 1.00尺	11枚/[illegible]
平　瓦	巾 1.00尺 長 1.07尺 厚 0.075尺 [illegible] 0.78尺	33枚/[illegible]
巴　瓦	[illegible] 0.78尺	
[illegible]	巾 0.77尺 長 1.07尺	
[illegible]	巾 0.77尺 長 1.03尺	

第 6図　斑鳩寺講堂　屋根瓦葺替工事図



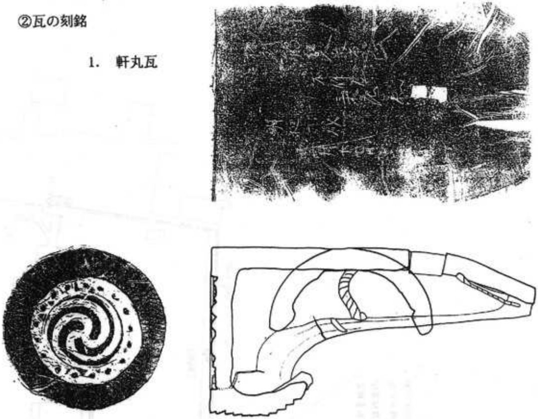
第 7図　斑鳩寺講堂　木部工事図



第 8図　斑鳩寺　防災施設工事図

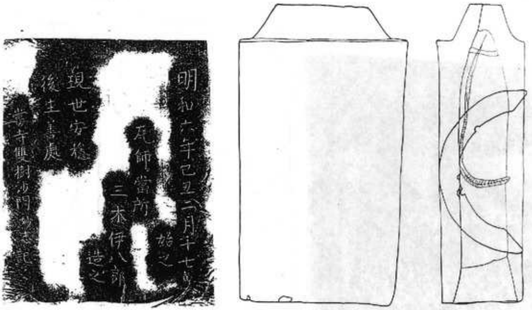
②瓦の刻銘

1. 軒丸瓦

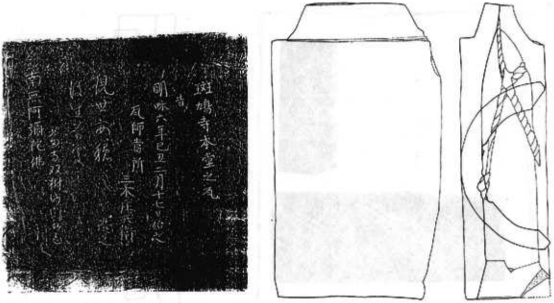


2. 丸瓦

第 9図　　斑鳩寺講堂瓦銘実測図



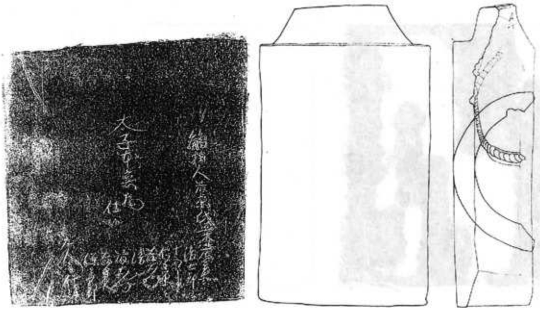
3. 丸瓦



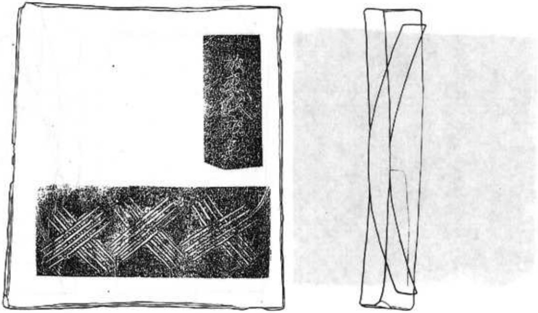
4. 丸瓦

第10図　斑鳩寺講堂瓦銘実測図

0　5　10cm

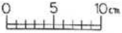


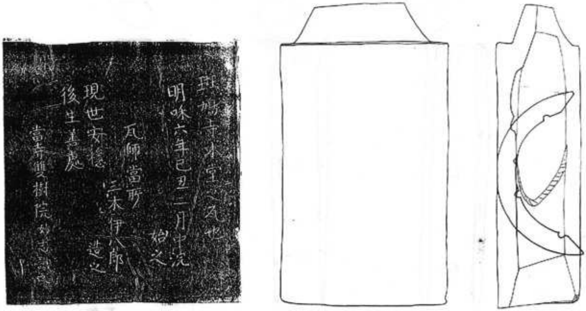
7.　丸瓦



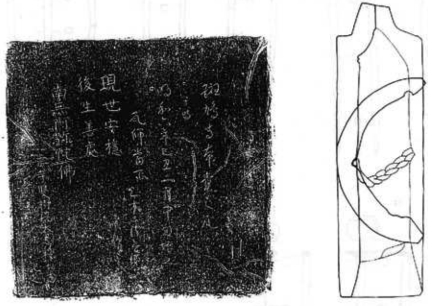
8.　平瓦

第11図　斑鳩寺講堂瓦銘実測図





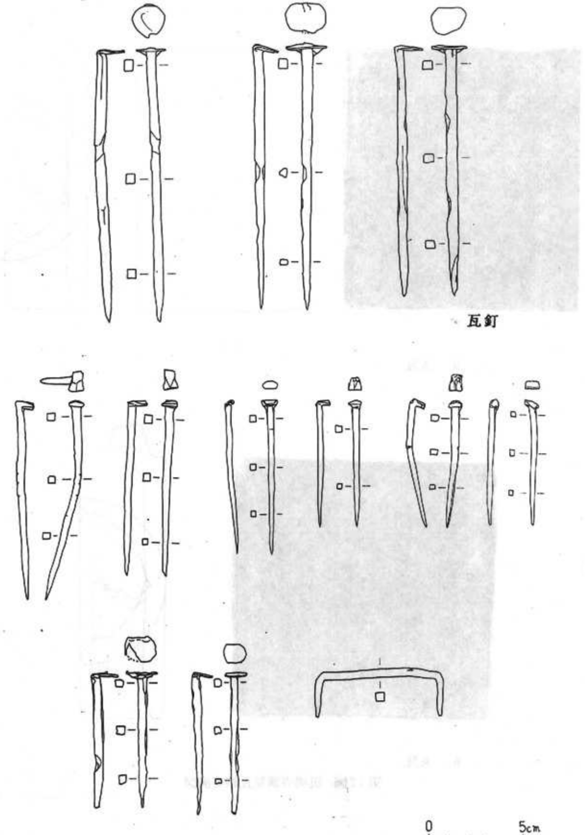
5. 丸瓦



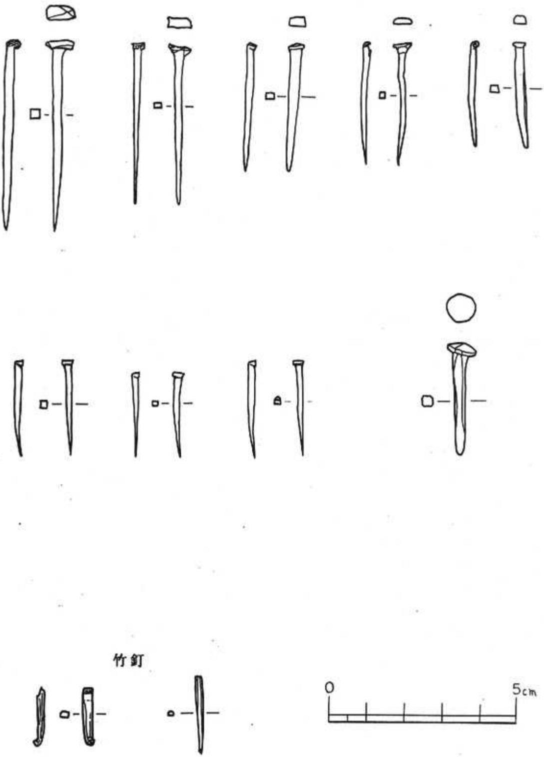
6. 丸瓦

第12図 斑鳩寺講堂瓦銘実測図

0 5 10cm



第13図　斑鳩寺講堂　　釘実測図



第14図　斑鳩寺講堂　　釘実測図

図版 1　斑鳩寺講堂　　修理前　　正面の状況

図版 2　斑鳩寺講堂　　修理前　　背面の状況

図版 3　斑鳩寺講堂　　修理前　　正面屋根の状況

（丸瓦は横ずれが著しく、西端の降棟は一部陥落している。）

図版 4　斑鳩寺講堂　　修理前　　正面屋根の軒端状況

（軒瓦は葺きずれをして、落下のおそれがある。）

図版 5　斑鳩寺講堂　　修理前　　正面屋根の状況
（葺瓦に破損がみられ、葺ずれが著しい。）

図版 6　斑鳩寺講堂　　修理前　　向拝の屋根軒端の状況
（軒巴瓦がずれさがっている。）

図版 7　斑鳩寺講堂　　修理前　　正面屋根の状況
（葺瓦は劣化が著しい。）

図版 8　斑鳩寺講堂　　修理前　　西面屋根の状況
（葺きずれが著しく雨漏りしいてる。）

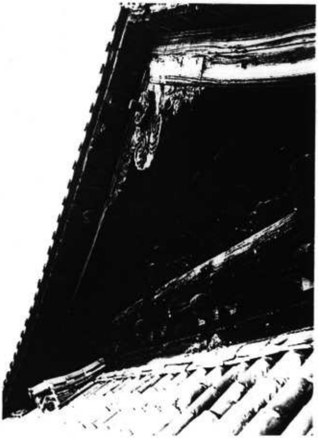
図版 9　斑鳩寺講堂　　修理前　　背面屋根の状況
（東半部は小修理が行なわれている。）

図版10　斑鳩寺講堂　　修理前　　背面西半分の屋根
（葺瓦はかなり破損し、葺足も弛んでいる。）

図版11　斑鳩寺講堂
修理前

西南隅箕甲尻部の屋根

妻の掛巴尻は止釘が弛んで
丸瓦からはみだし雨漏りが
している



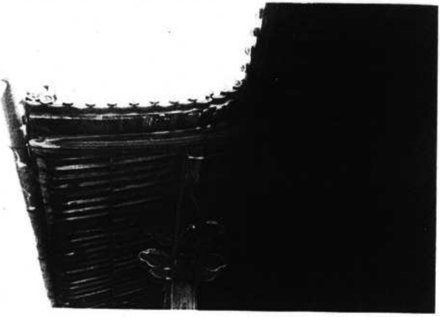
図版12　斑鳩寺講堂
修理前

西側妻組の状況

裏甲が腐朽欠失して
いる

図版13　斑鳩寺講堂　　修理前　　東側面　裏甲腐朽状況

（箕甲尻から雨漏りしたため、裏甲端に腐朽がおよんでいる。）

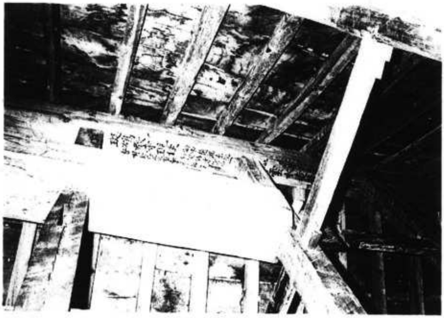


図版14　斑鳩寺講堂　　修理前　　向拝・裏甲の腐朽状況

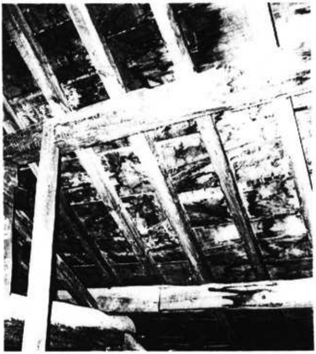
（縋裏甲の大半が腐朽している。）

図版15　斑鳩寺講堂内部　修理前　　東南部　小屋組の腐朽状況
（東南の野隅木は腐朽落損し、野地や母屋の破損も著しいる。）

図版16　斑鳩寺講堂内部　修理前　　西南部　小屋組の腐朽状況
（箕甲尻部の野地は雨漏りの被害をうけ、東踏母屋隅木等の
腐朽が著しいる。）



図版17　斑鳩寺講堂内部　修理前　　棟木銘
（雲水造営誠永年とある。）



図版18　斑鳩寺講堂内部　修理前　　屋根裏の破損状況
（野地板に雨漏りの跡がある。）

図版19　斑鳩寺講堂　修理中　　正面東南側
（小屋組の補修作業風景）

図版20　斑鳩寺講堂　修理中　　向拝の軒端
（軒廻りの補修作業風景）

図版21　斑鳩寺講堂　修理中　　西側面

（瓦の取り除き作業風景）

図版22　斑鳩寺講堂　修理中　　向拝

（野地板取り除き作業風景）

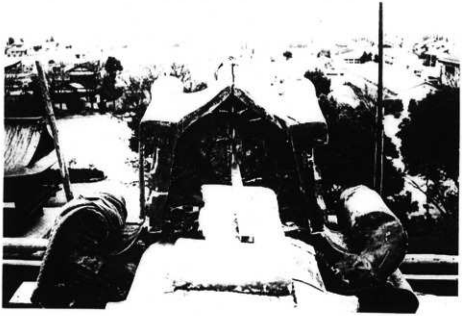
図版23　斑鳩寺講堂　竣工　　西側側面
（建具の補修）

図版24　斑鳩寺講堂　竣工　　正面
（軒樋の取替）

図版25　斑鳩寺講堂　竣工　　正面

図版26　斑鳩寺講堂　竣工　　背面

図版27　斑鳩寺太子堂　　自火報設備の復旧



大坂木津川口
瓦屋源兵衛

図版28　斑鳩寺講堂　　大棟の刻銘

木造　如意輪観音菩薩坐像　　木造　釈迦如来坐像　　木造　薬師如来坐像

図版29　斑鳩寺講堂内安置重要文化財

図版30　重要文化財　斑鳩寺三重塔